

# 分身ロボットや360度カメラ

## ICT活用の特別支援教育を公開

都立光明学園

全国初の公立肢体不自由教育学校として90年近い歴史を持つ東京都立光明学園(田村康二朗校長、児童生徒231人)で2月7日、第3回公開研究会が開かれ、全国から約200人の教員が参加した。ICTを活用した実践など、最先端の特別支援教育の取り組みが公開された。

授業では分身ロボットを重ね、誰もが見やすいようにデザインされたウェブページを目指した。約半年をかけてウェブページを完成させた同校高等部3年の朝日豊治君は「思い出の詰まった校舎をウェブ上に残せたらしいな」と思っていて挑戦した。みんなが楽しんで見られるように、タイ

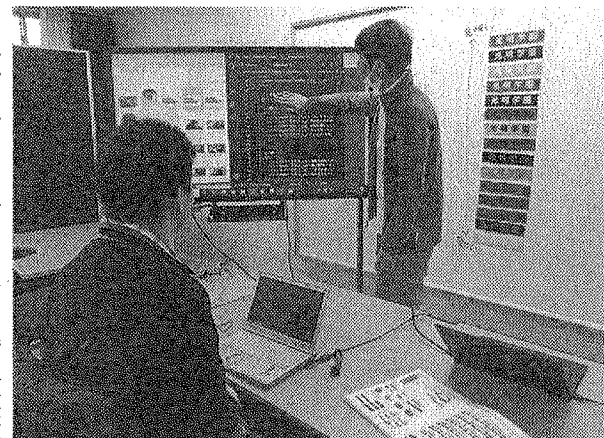
元学習では、外国語指導助手(ALT)によるギター演奏に合わせ、歌いながら数を表す英語を学んだり、テンポに合わせて体を動かしたりし

業後も、仕事などでウェブページ作りの体験を生かしていきたい」と振り返った。

他の特別支援教育の課題をテーマにしたセミナーや同校の教職員による実践研究のポスター発表などがあった。



みながら、デザインを検討。背景色や文字の位置を調整しながら試行錯誤を繰り返して、外国語指導助手(ALT)の演奏に合わせて体を動かす児童ら



より見やすいデザインを目指し、HTMLを何度も見直す生徒たち